

中島村定住促進計画

平成 28 年 3 月

(令和 3 年 3 月改訂)

中 島 村

目 次

第 1 章 計画策定の趣旨	1
1 策定の目的	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の期間	1
第 2 章 中島村の定住促進に向けた現状分析	2
1 中島村の概況	2
2 統計からみる現状	3
3 他市町村との比較からみる現状	7
4 アンケート・ヒアリング調査からみる現状	12
第 3 章 計画の方向性	17
1 基本理念	17
2 計画における具体的な目標	17
3 基本目標	18
4 施策の体系	19
第 4 章 施策の展開	20
基本目標 1 移住・定住へのきっかけづくり ～中島を知る・訪れる～	20
基本目標 2 移住・定住の体制づくり ～中島に移り住む～	22
基本目標 3 住みよい環境づくり ～中島に定着する～	24
第 5 章 計画の推進	27
1 推進体制	27
2 広域連携	27

第1章 計画策定の趣旨

1 策定の目的

日本は少子高齢化の進行による、人口減少時代を迎えています。特に、地方においては高齢化の進展が顕著にみられるほか、地域の担い手である若者の流出も問題となっています。中島村においても、平成12年をピークに減少に転じているほか、少子高齢化も進行しています。また、近年は自然動態、社会動態ともにマイナス超過となっており、このまま、何の対策も実施しなければ、人口減少が加速的に進行していくことが推測されます。そのため、村の魅力を高め、定住人口の維持、増加を図りながら、持続可能で活力あるまちづくりを進めていくことが重要な課題となっています。

このような状況を踏まえ、中島村では、人口減少を抑制し、地域活力の維持を図るための効果的な施策を展開していくために「中島村定住促進計画（以下、「本計画」）」を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、中島村第5次総合振興計画後期基本計画を上位計画とし、中島村における人口減少対策、定住促進に関わる施策を位置付けるものです。

また、平成26年にまち・ひと・しごと創生法が施行され、中島村では、国の方針に基づき、中長期的人口動向を分析し、将来の人口展望を示した「中島村人口ビジョン」と、「中島村人口ビジョン」で示された人口展望を達成するための具体的な取り組みを示した「中島村創生総合戦略」を令和2年度に策定しています。

本計画には、「中島村創生総合戦略」に位置付けられた定住促進施策を重点施策として位置付けるとともに、関連する他の個別計画との整合を図り、相互に連携し補完し合いながら定住促進の取り組みを進めていくものです。

3 計画の期間

本計画の期間は令和3年度から令和8年度までの5年間とし、社会経済情勢や財政状況を勘案し、より効果的な施策を展開していくため、適宜見直しを行います。

第2章 中島村の定住促進に向けた現状分析

1 中島村の概況

中島村は、福島県中通りに位置し、西白河郡に属しています。

平らかな土地の東には、寄り添うように阿武隈川が流れ、自然の恵みを受けながら、約4,900人の人々が暮らしを営んでいます。

かつては“なでしこ原”とよばれた原野も現在では、約600haの水田と約430haの畑に基盤整備され、豊穡の大地をつくりだしています。西北一帯に広がる丘陵地には、太陽の恵みを受けて、トマトやシクラメン等のハウス栽培をはじめ、水耕農業によるチンゲン菜の栽培等も盛んに行われています。明治の頃よりの苗木生産の技術は現在、公害に強い緑化木へと受け継がれ、“中島村の緑化木”として広く世に知られています。

また、白河市・矢吹町・棚倉町を頂点とする白河地方広域市町村圏の中央部に位置する中島村は、人・モノ・情報が行き交うアクセスポイントとして、様々な活性化が図られています。

◇中島村の概況



2 統計からみる現状

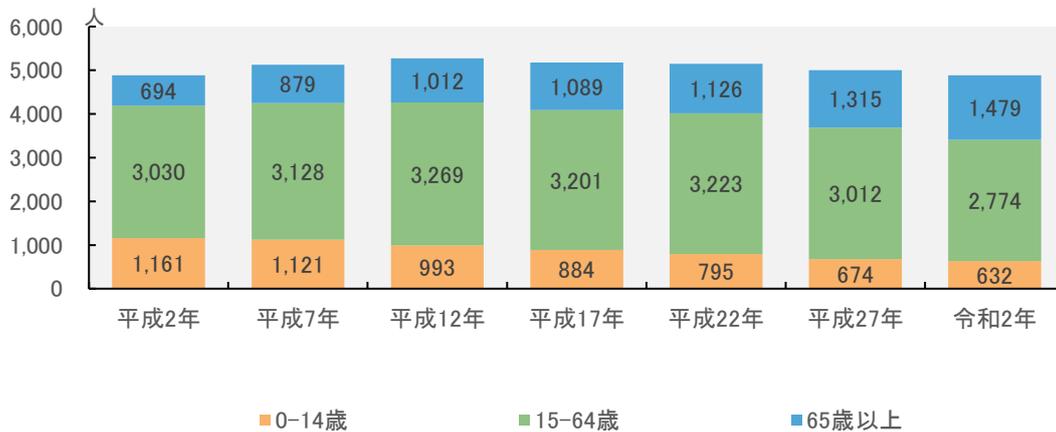
(1) 人口の状況

中島村の総人口の状況を見ると、平成12年までは増加していたものの、平成17年以降は緩やかな減少に転じています。

年齢3区分別にみると、15-64歳人口は総人口と同様に平成12年まで増加し、平成17年に一度減少に転じたものの、平成22年には増加。しかし、平成27年以降は再び減少に転じています。0-14歳人口は、平成2年以降一貫して減少、65歳以上人口については、平成2年以降一貫して増加しています。

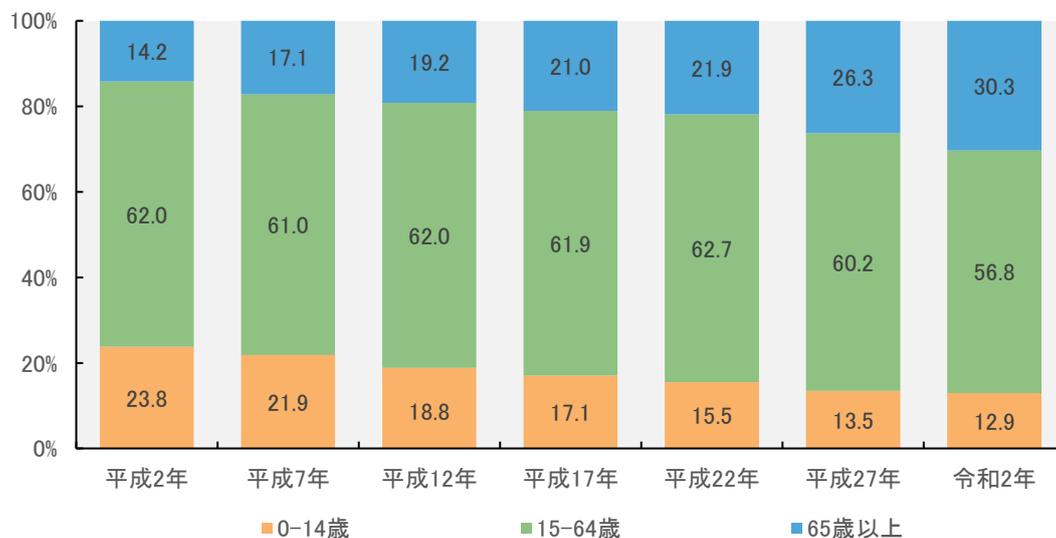
全国的な傾向と同様に、中島村においても少子・高齢化が進んでいますが、国・県に比べるとその速度は緩やかとなっています。

◇年齢3区分別人口の推移



資料:国勢調査

◇年齢3区分別人口割合の推移



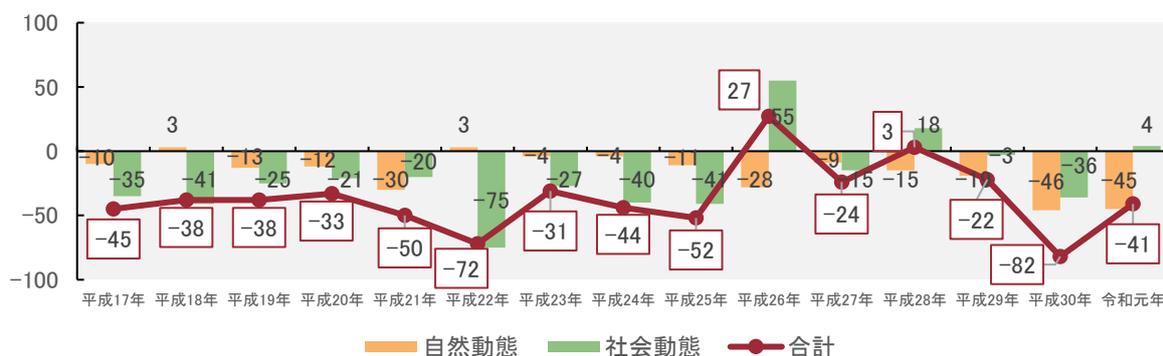
資料:国勢調査

(2) 人口動態の状況

自然動態の推移をみると、平成22年にプラスに転じたものの、近年はマイナス超過となっています。社会動態の推移をみると、平成14年以降マイナス超過で推移しています。平成22年に大きく減少したものの、近年は40人減程度で推移しています。

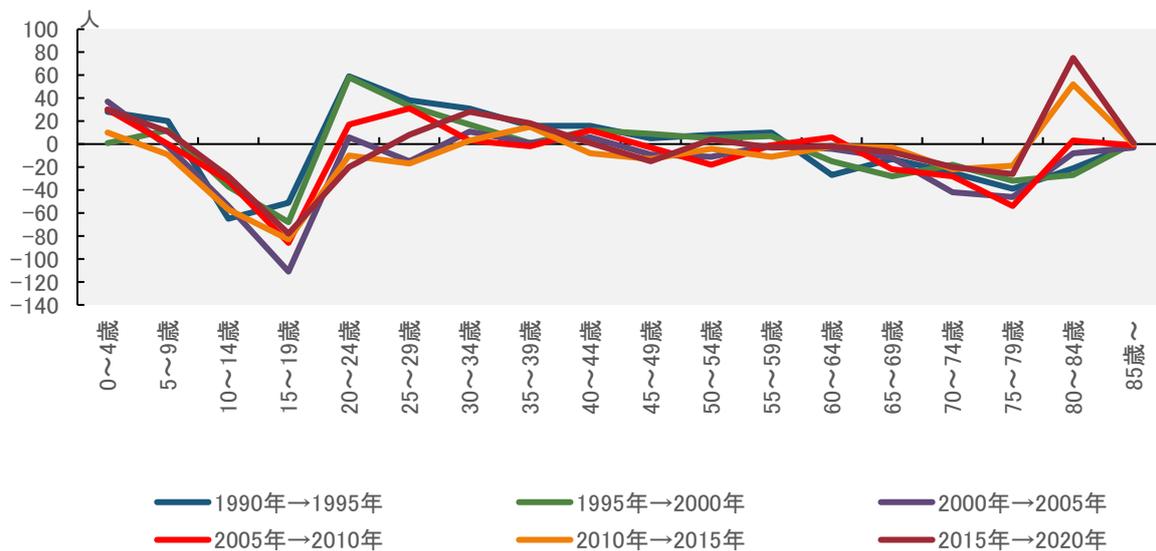
年齢別移動状況をみると、1990年から2000年にかけては、20～34歳がプラス超過で目立っています。また、1985年以降一貫して10～19歳がマイナス超過となっており、この世代の転出が多いことがうかがえます。

◇自然動態・社会動態の推移



資料：都道府県・市区町村のすがた

◇年齢階級別移動状況の推移



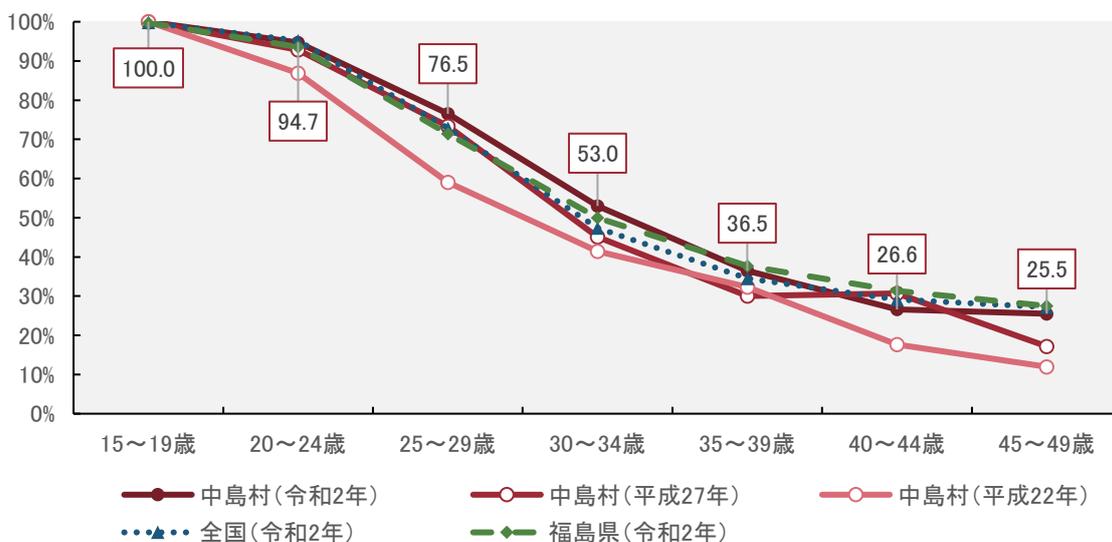
資料：国勢調査

(3) 婚姻等の状況

男性の未婚率をみると、この10年間で20歳代後半の割合が大きく増加しており、17.4ポイント増加しています。全国・福島県と比べると、30歳代前半以下の若い世代で中島村の未婚率が高くなっています。

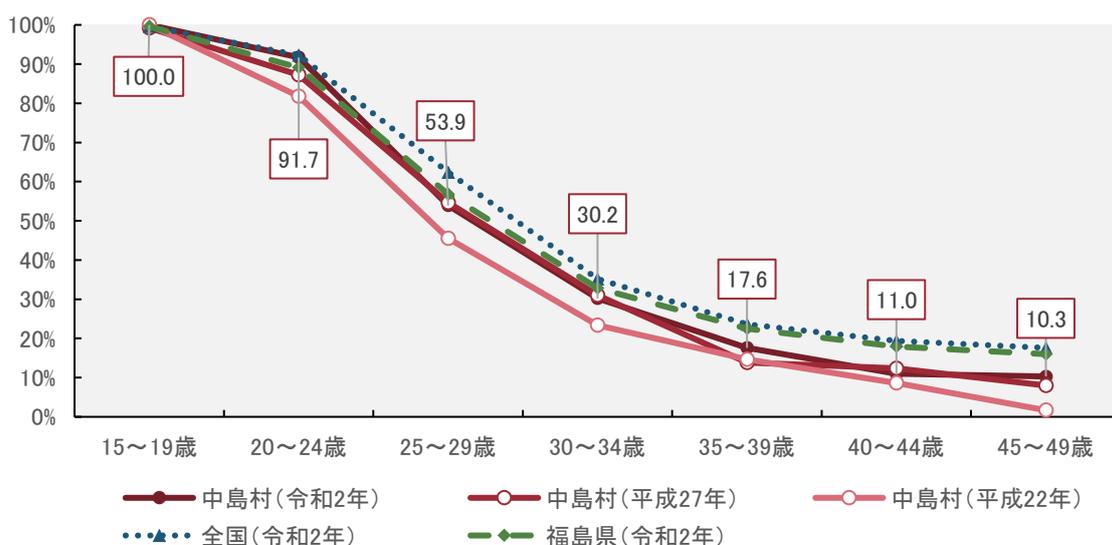
女性の未婚率をみると、この10年間で20歳代以降の割合が増加しており、特に25～29歳で8.4ポイント増加しています。全国・福島県と比べると、25歳以降の年代において中島村の未婚率が低くなっています。

◇男性・未婚率の推移



資料:国勢調査

◇女性・未婚率の推移



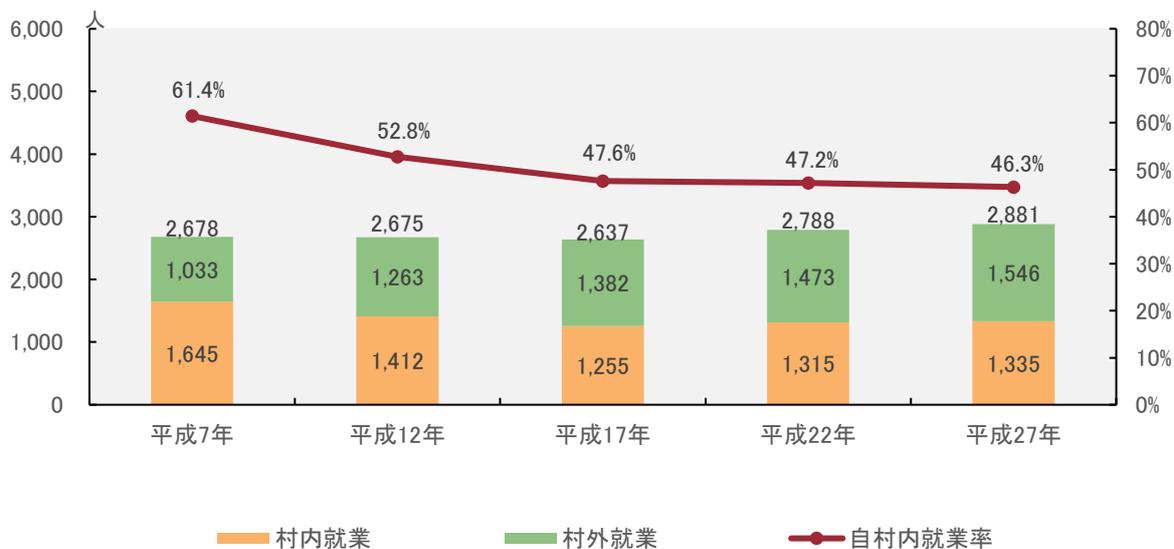
資料:国勢調査

(4) 就業の状況

就業状況をみると、村内で就業している数は平成17年まで減少傾向となっていたものの、平成22年以降増加しています。一方で、村外で就業している数は平成7年以降一貫して増加しています。そのため、自村内就業率は減少傾向となっており、平成27年で46.3%と半数を割っています。

村外の従業地をみると、白河市が17.2%と最も多く、次いで矢吹町、泉崎村、西郷村、石川町と続き、この5市町村で39.7%を占めています。

◇就業状況の推移



資料: 国勢調査

◇従業地の状況

従業地	人数	割合
自村内で従業	<u>1,335</u> 人	<u>46.3%</u>
村外で従業	<u>1,546</u> 人	<u>47.2%</u>
白河市	<u>496</u> 人	<u>17.2%</u>
矢吹町	<u>264</u> 人	<u>9.2%</u>
泉崎村	<u>203</u> 人	<u>7.0%</u>
石川町	<u>85</u> 人	<u>3.0%</u>
西郷村	<u>94</u> 人	<u>3.3%</u>

資料: 国勢調査

3 他市町村との比較からみる現状

比較対象の考え方

中島村の特性や位置付けを明確にするために、以下の観点から都市間比較を行います。

① 隣接市町村

中島村と近接する市町村

【白河市、矢吹町、泉崎村、石川町】

※いずれも福島県

② 全国類似町村

総務省による人口や産業構造（産業別就業人口の構成比）をもとにした類型化が中島村と同じ類似団体「Ⅱ－1」（人口 5,000 人以上 1 万人未満、産業構造Ⅱ次、Ⅲ次 80%未満の団体）のうち、人口 6,000 人未満かつ高速道路の IC から 30 分以内にアクセスすることができる市町村

【長万部町（北海道）：道央自動車道国縫 IC より車で約 15 分、

舟形町（山形県）：東北中央自動車道尾花沢北 IC より車で約 10 分、

関川村（新潟県）：日本海東北自動車道荒川胎内 IC より車で約 20 分、

富加町（岐阜県）：東海環状自動車道富加関 IC より車で約 10 分、

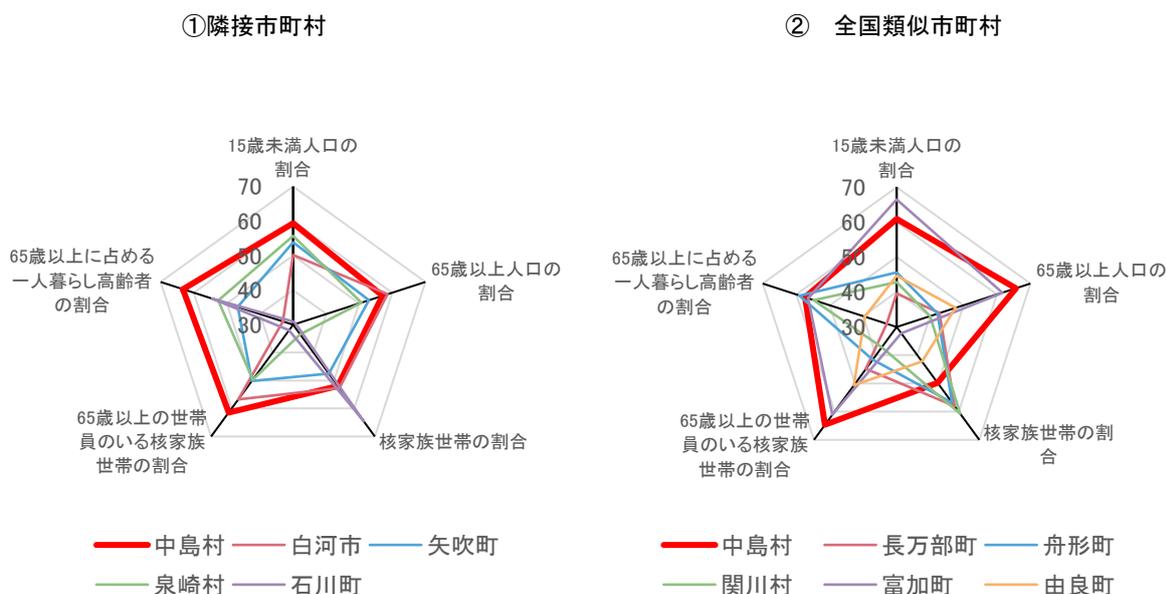
由良町（和歌山県）：紀勢自動車道広川 IC より車で約 20 分】

※都市間比較にあたっては、中島村及び対象の市町村との相対的比較による偏差値を算出しています。そのため、中島村の偏差値は①②それぞれで異なった数値が算出されます。

(1) 人口・世帯の状況

人口・世帯の状況については、近隣市町村、全国類似市町村のいずれの比較においても、「65歳以上の世帯員のいる核家族世帯の割合」が最も低くなっています。また、「65歳以上の人口の割合」や「65歳以上に占める一人暮らし高齢者の割合」も比較的低く、「15歳未満人口の割合」が高いため、隣接自治体及び類似自治体と比較して少子高齢化が進行していないことがうかがえます。

◇人口・世帯の状況の市町村間比較(偏差値)



		15歳未満人口の割合		65歳以上人口の割合※		核家族世帯の割合※		65歳以上の世帯員のいる核家族世帯の割合※		65歳以上に占める一人暮らし高齢者の割合※	
		数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値
近隣市町村	中島村	12.9%	59.4	30.3%	57.0	51.7%	51.9	24.3%	61.4	9.5%	63.3
	白河市	11.9%	50.2	29.9%	58.5	51.6%	52.7	26.3%	56.7	14.6%	33.1
	矢吹町	12.3%	53.9	31.4%	52.9	52.3%	47.5	29.1%	50.1	12.3%	46.7
	泉崎村	12.5%	55.7	32.0%	50.7	54.2%	33.5	29.3%	49.7	11.3%	52.6
	石川町	9.8%	30.9	37.3%	30.8	50.0%	64.5	36.8%	32.0	11.0%	54.4
全国類似町村	中島村	12.9%	60.9	30.3%	65.7	51.7%	49.8	24.3%	64.7	9.5%	57.3
	長万部町	8.3%	39.5	41.7%	42.8	48.3%	58.1	39.3%	44.9	25.6%	33.0
	舟形町	9.6%	45.6	42.0%	42.2	48.8%	56.8	41.8%	41.6	8.4%	59.0
	関川村	9.0%	42.8	43.1%	40.0	47.2%	60.7	45.1%	37.2	11.2%	54.8
	富加町	14.1%	66.5	32.3%	61.7	58.9%	32.3	27.0%	61.1	10.1%	56.4
	由良町	9.4%	44.7	39.3%	47.6	54.8%	42.3	34.9%	50.7	21.3%	39.5

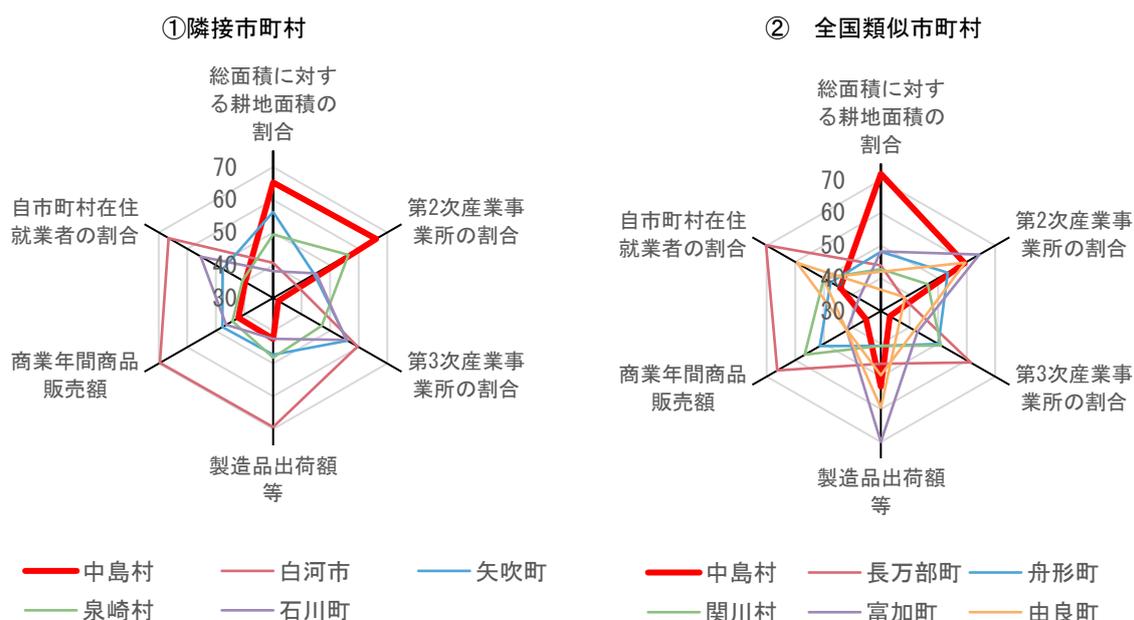
※は逆指標（数値が低いほど、偏差値が高くなる）

資料：国勢調査

(2) 産業の状況

産業の状況については、近隣市町村、全国類似市町村のいずれの比較においても「総面積に対する耕地面積の割合」が第1位となっている一方、「第3次産業事業所の割合」「商業年間商品販売額」が最下位となっています。

◇産業の状況の市町村間比較(偏差値)



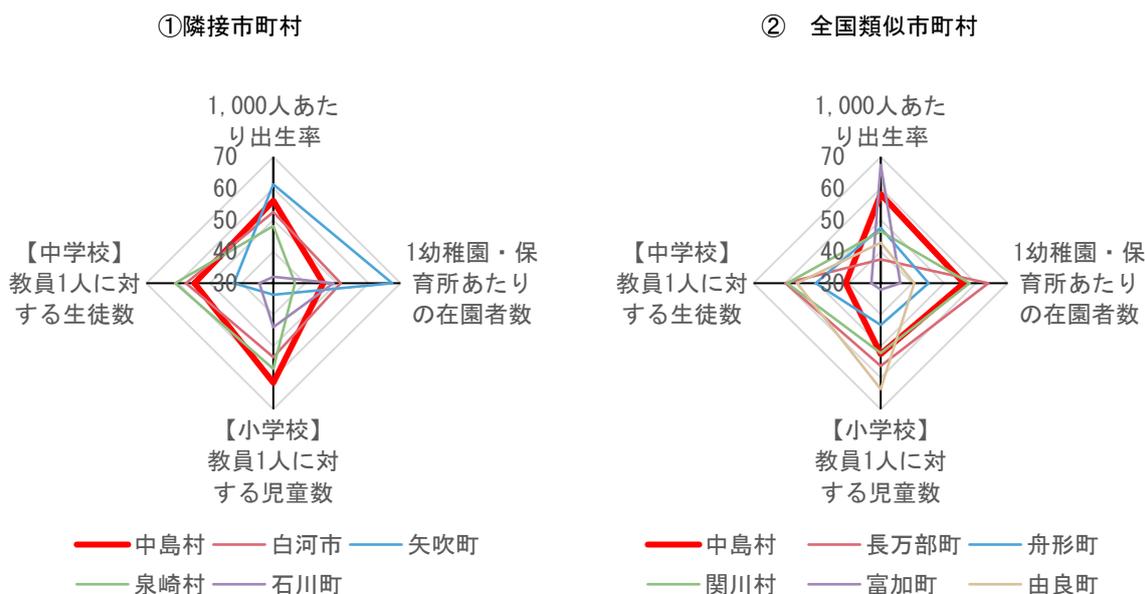
		総面積に対する 耕地面積の割合		第2次産業事業 所の割合		第3次産業事業 所の割合		製造品 出荷額等		商業年間 商品販売額		自市町村在住 就業者の割合	
		数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値
近隣市町村	中島村	40.2%	65.3	41.0%	66.1	38.2%	31.8	22,138 百万円	42.5	2,161 百万円	42.1	46.3%	39.8
	白河市	12.9%	40.7	19.2%	38.0	80.0%	59.6	287,814 百万円	69.4	99,416 百万円	69.6	67.0%	66.6
	矢吹町	30.2%	56.3	24.2%	44.4	74.7%	56.0	69,274 百万円	47.3	22,053 百万円	47.7	52.3%	47.6
	泉崎村	22.6%	49.4	33.5%	56.4	61.1%	47.0	78,623 百万円	48.2	9,533 百万円	44.2	47.0%	40.7
	石川町	10.2%	38.2	24.7%	45.1	74.1%	55.6	22,458 百万円	42.5	17,456 百万円	46.4	58.3%	55.3
全国類似町村	中島村	40.2%	71.9	41.0%	59.3	38.2%	33.1	22,138 百万円	53.1	2,161 百万円	35.2	46.3%	44.2
	長万部町	4.8%	43.9	18.4%	37.9	80.6%	61.5	12,698 百万円	46.1	5,145 百万円	66.3	91.7%	70.2
	舟形町	10.1%	48.1	34.8%	53.4	63.6%	50.1	5,373 百万円	40.6	3,714 百万円	51.4	52.1%	47.6
	関川村	3.4%	42.8	27.4%	46.4	65.0%	51.0	5,402 百万円	40.6	4,219 百万円	56.7	56.4%	50.0
	富加町	10.2%	48.2	46.5%	64.5	52.7%	42.8	44,948 百万円	70.0	2,800 百万円	41.9	34.9%	37.7
	由良町	6.5%	45.2	18.9%	38.4	80.6%	61.5	17,475 百万円	49.6	3,429 百万円	48.4	56.8%	50.2

資料：農林業センサス、経済センサス

(3) 子育て・教育の状況

子育て・教育の状況については、近隣市町村では「1,000人あたり出生率」「1幼稚園・保育所あたりの在園者数」が平均以上となっています。全国類似市町村では「1,000人あたり出生率」「【中学校】教員1人に対する生徒数」が平均以上となっています。

◇子育て・教育の状況の市町村間比較(偏差値)



		1,000人あたり出生率		1幼稚園・保育所あたりの在園者数※		【小学校】教員1人に対する児童数※		【中学校】教員1人に対する生徒数※	
		数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値
近隣市町村	中島村	5.94	56.1	95.0人	45.7	10.7人	61.6	10.8人	54.8
	白河市	5.73	52.5	91.6人	51.2	11.8人	53.5	10.1人	57.5
	矢吹町	6.25	61.3	81.6人	67.4	14.5人	33.7	14.1人	42.4
	泉崎村	5.47	48.1	100.5人	36.8	11.3人	57.2	9.2人	60.9
	石川町	4.51	32.0	93.0人	48.9	13.1人	44.0	16.2人	34.4
全国類似町村	中島村	1.52	58.2	95.0人	56.2	10.7人	52.5	10.8人	41.0
	長万部町	1.40	37.5	43.0人	63.9	9.2人	56.3	6.6人	59.9
	舟形町	1.51	47.5	170.0人	45.1	14.3人	43.3	8.7人	50.4
	関川村	1.47	46.4	82.5人	58.0	10.8人	52.2	6.7人	59.4
	富加町	1.52	67.5	230.0人	36.2	18.7人	32.1	12.6人	32.9
	由良町	1.45	42.8	200.0人	40.6	6.3人	63.6	7.4人	56.3

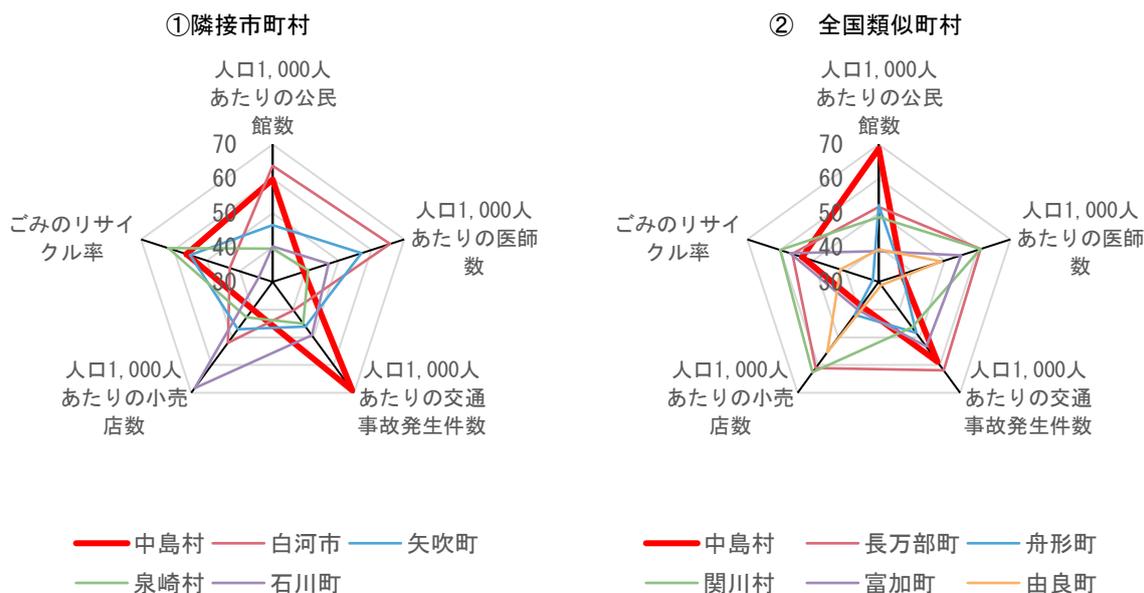
※は逆指標（数値が低いほど、偏差値が高くなる）

資料：人口動態調査、学校基本調査

(4) 生活環境の状況

生活環境の状況については、近隣市町村及び全国類似町村で「人口 1,000 人あたりの公民館数」「ごみのリサイクル率」が平均以上となっているほか「人口 1,000 人あたりの医師数」「人口 1,000 人あたりの小売店数」が最下位となっています。また、「人口 1,000 人あたりの交通事故発生件数」が最も少なくなっています。

◇生活環境の状況の市町村間比較(偏差値)



		人口 1,000 人あたりの公民館数		人口 1,000 人あたりの医師数		人口 1,000 人あたりの交通事故発生件数※		人口 1,000 人あたりの小売店数		ごみのリサイクル率	
		数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値	数値	偏差値
近隣市町村	中島村	2.47	59.8	0.2 人	39.5	1.84	69.1	5.90	39.9	11.4%	56.2
	白河市	2.86	63.8	2.3 人	65.7	5.43	40.3	9.51	52.0	10.2%	43.0
	矢吹町	1.16	46.5	1.6 人	57.0	4.69	46.2	8.04	47.1	11.3%	55.1
	泉崎村	0.48	39.6	0.3 人	40.8	4.83	45.1	6.76	42.8	11.9%	61.7
	石川町	0.55	40.3	0.8 人	47.0	4.30	49.3	14.40	68.3	9.4%	34.2
全国類似町村	中島村	2.47	68.8	0.2 人	37.1	1.84	58.8	5.90	38.7	11.4%	53.3
	長万部町	1.37	51.8	0.6 人	60.9	1.37	61.9	13.50	61.1	12.3%	56.3
	舟形町	1.40	52.3	0.2 人	37.1	3.40	48.4	6.99	41.9	4.9%	31.8
	関川村	1.17	48.8	0.6 人	60.9	3.69	46.4	14.00	62.6	13.4%	60.0
	富加町	0.53	38.9	0.5 人	55.0	2.67	53.3	6.40	40.2	12.5%	57.0
	由良町	0.56	39.4	0.4 人	49.0	5.97	31.2	11.56	55.4	7.9%	41.7

※は逆指標（数値が低いほど、偏差値が高くなる）

資料：社会教育調査、医師・歯科医師・薬剤師統計、犯罪統計経済センサス、日本の廃棄物処理

4 アンケート・ヒアリング調査からみる現状

(1) ニュータウン移住者ヒアリング調査結果

調査概要

調査対象：浦原ニュータウンに転入してきた世帯

調査方法：1か所に集まっていたのグループインタビュー形式

実施期間：平成27年11月2日

参加者：4名（4世帯）

① 中島村、浦原ニュータウンへの移住のきっかけ

- 夫との結婚を機に
- ニュータウンの案内を見て（会社にチラシが届いた）
- 仕事の場所を勧案して（白河市に勤務）

② 中島村の良いと感じるところ

- 土地が近隣自治体に比べて安い（当時）
- 下水道が通っていた（ニュータウン）
- 同じ年代の子どもが多くいる
- 放課後児童クラブがあること

③ 中島村の不便を感じる場所

- バス・交通が不便
- 村タクシーの融通がきかない、役場を拠点に交通手段があるとよい
- 子どもが小さいころは良いが、高校以降が不便である

④ 定住促進のために充実してほしい取り組み、アイデア

- 奨学金制度の取り組み（子育て世帯への経済的助成）
- 就労場所を確保したうえでのUターン（進学した人が戻ってくるためには働く場が必要である）
- 専門職を活かせる職場
- 情報発信
- 結婚を機に帰ってくるができる仕組みづくり
- 定年後の土地購入の助成
- 緊急ダイヤル等緊急時の地域のつながりの構築（ニュータウンならではのつながり）

(2) 田舎暮らしの斡旋を行う組織へのヒアリング調査結果

調査概要

調査対象：田舎暮らしを希望する人への情報提供及び相談対応等を行う NPO 法人組織

調査方法：インタビュー形式

実施期間：平成 27 年 11 月 12 日

① 近年の福島県（及び地方）への移住を希望する人の動向

- ただ田舎暮らしがしたいわけではなく、目的やテーマを持って移住を希望する人が多い。
- 福島県への移住を希望する人は、震災前は定年退職世代が多かったが、震災後は復興支援を目的とした若者や除染関係への従事を希望する低所得者層が増えたが、それもいったん落ち着いている。
- 移住先の希望の大まかな内訳としては、浜通りが 10%、中通りが 20%、会津が 15%、県全域・未定が 55%となっている。（平成 26 年度）

②中島村及び県南地域の印象

- 会津地方が積極的に取り組んでおり、県南地域の取り組みはあまり聞かれない。
- 退職後に首都圏に比較的近いエリアで田舎暮らしを希望する人は一定数みられる。また、若い人についても、スローライフとして農業への従事を希望する人も一定数みられる。

③中島村（及び福島県）への移住を促進するために必要だと感じること

- 移住促進の大前提として、ただ人を呼び込むのではなく、定着させることが非常に重要になる。そのため、地域住民との交流や生活に馴染むこと等、移住後の生活までフォローできる体制が必要である。
- コンシェルジェのような一貫したコーディネートを行うことができる人材を確保・育成していくことが重要である。行政機関だけでは難しい領域でもある。まずは地域内で移住者を掘り起こして意見を聞いていくことが重要ではないか。
- 移住を希望する人は助成等の制度よりも、その地域でどういった生活を送ることができるかをまず知りたがっている。そのため、移住後の生活やそこでのフォローをイメージすることができる、または移住者の声を聞くことができるような情報提供や周知が必要である。
- 移住してから定職を探す人はほとんどおらず、移住先を考えながら、働き口を探す人がほとんどであるため、移住と雇用を連携させていくことが重要である。
- そもそも、その地域を知ってもらわなければ、移住を希望することすらない。そのため、観光をはじめ、移住に関係なくその地域を知ってもらうための PR（タウンプロモーション）をしていかなければいけない。その上で、「地域にこういった人がきてほしいという」テーマやターゲットをある程度明確にしたうえで定住促進施策を進めていく必要がある。

(3) 村内企業アンケート調査結果

調査概要

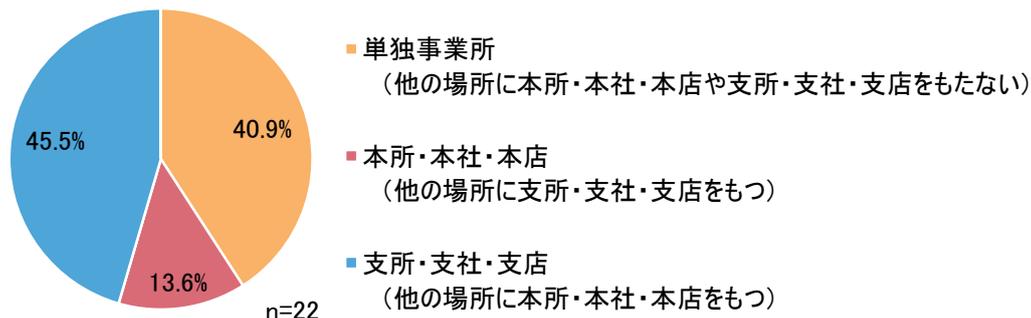
調査対象：村内に事業所がある企業 22 社

実施期間：平成 28 年 2 月～3 月

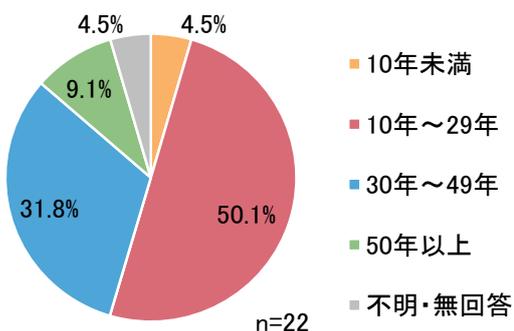
調査方法：直接配布・直接回収

① 事業所の概要について

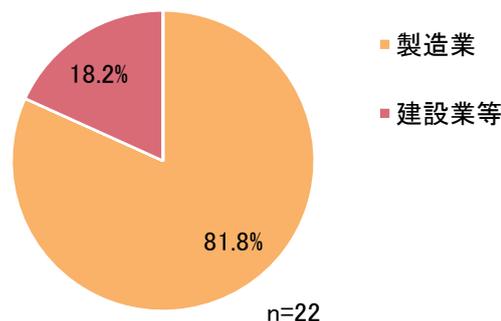
◇事業所の区分



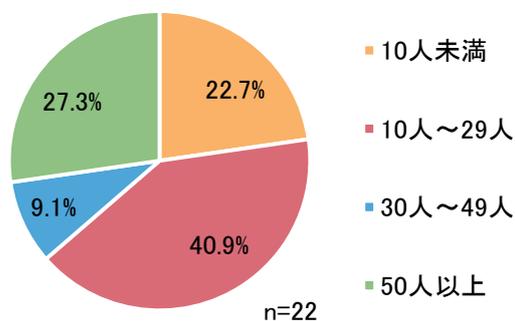
◇中島村での操業年数



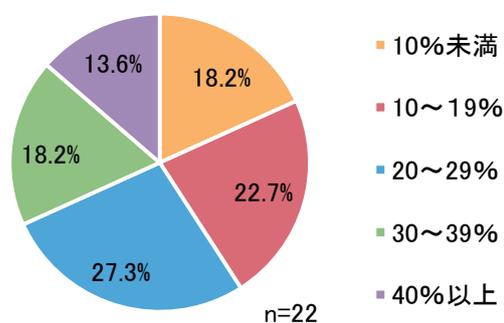
◇事業所の業種



◇事業所の従業員数

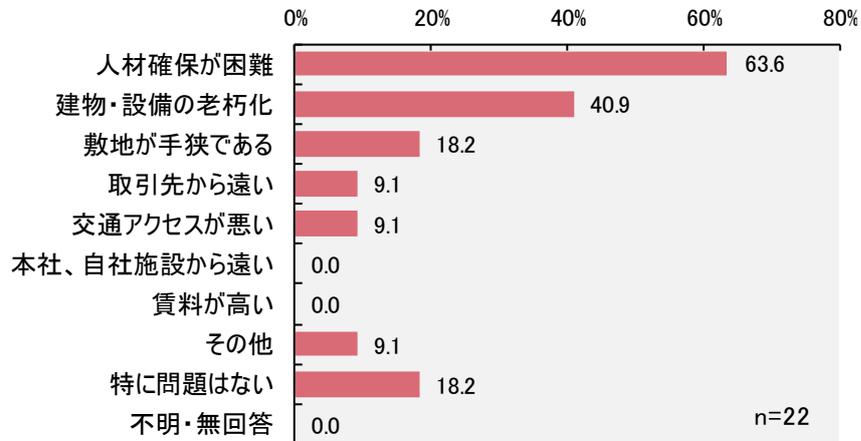


◇中島村在住の従業員の割合



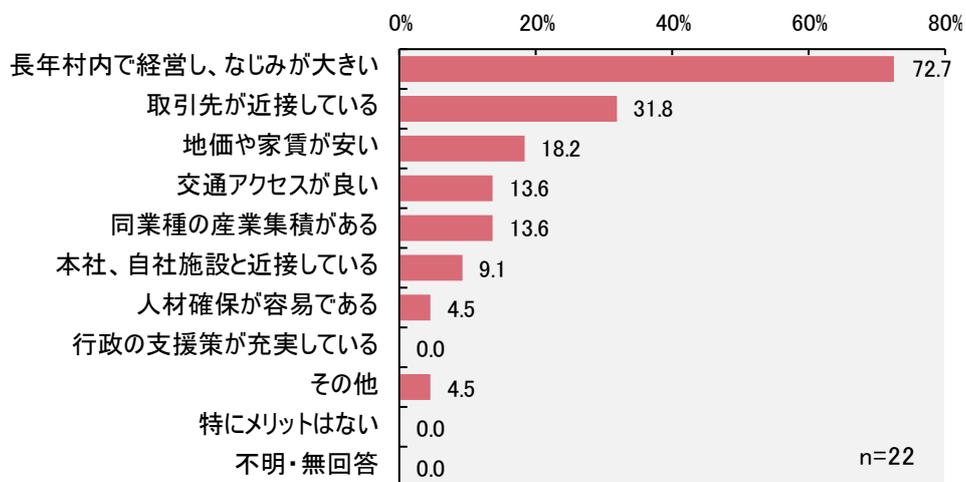
② 作業環境について

◇現在の作業環境について問題と感ずること



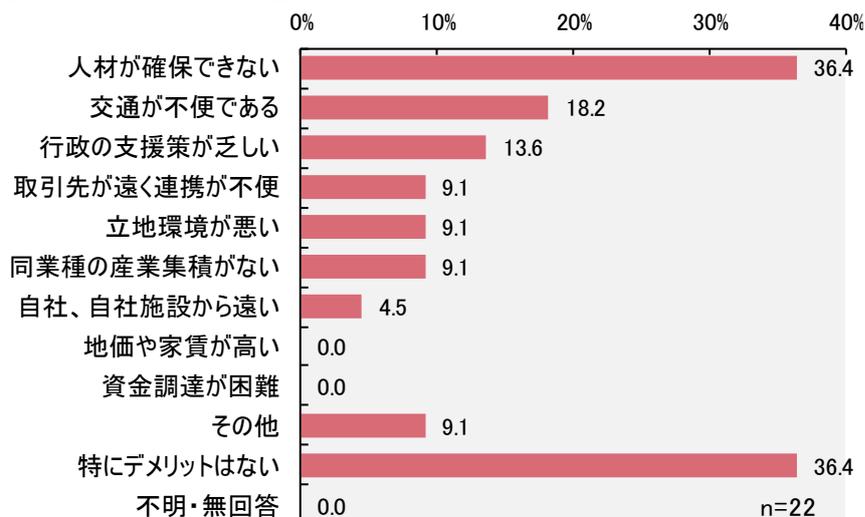
現在の作業環境で問題と感ずることについては、「人材確保が困難」が 63.6%で最も高く、次いで、「建物・設備の老朽化」が 40.9%、「敷地が手狭である」が 18.2%となっています。

◇中島村で作業するにあたってメリットと感ずること



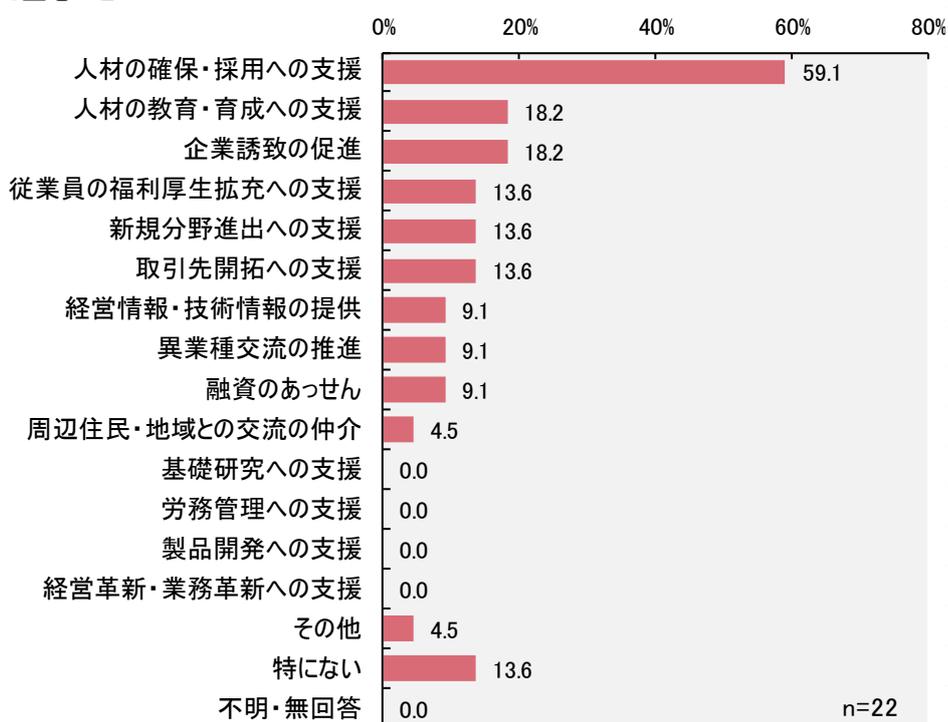
中島村で作業するにあたってメリットと感ずることについては、「長年村内で経営し、なじみが大きい」が 72.7%で最も高く、次いで、「取引先が近接している」が 31.8%、「地価や家賃が安い」が 18.2%となっています。

◇中島村で操業するにあたってデメリットと感ずること



中島村で操業するにあたってデメリットと感ずることについては、「人材が確保できない」が36.4%で最も高く、次いで、「交通が不便である」が18.2%、「行政の支援策が乏しい」が13.6%となっています。また、「特にデメリットはない」も36.4%で高くなっています。

◇行政に対して望むこと



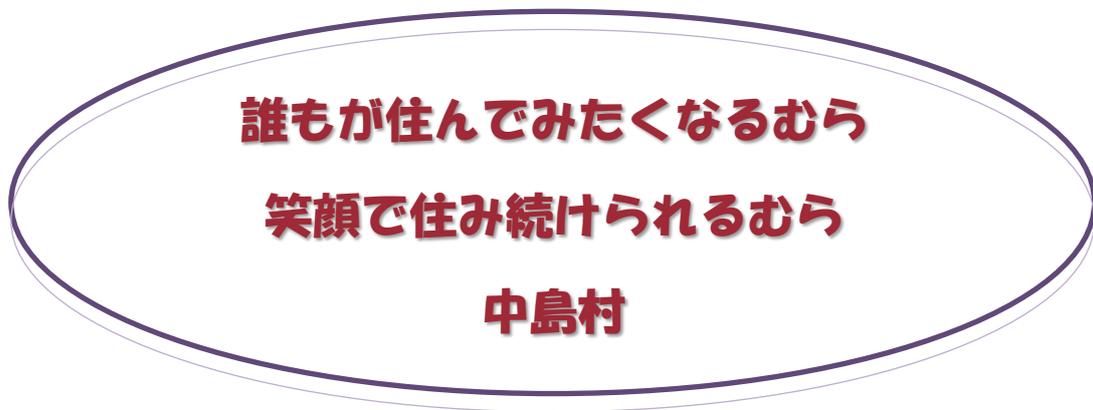
行政に対して望むことについては、「人材の確保・採用への支援」が59.1%で最も高く、次いで、「人材の教育・育成への支援」「企業誘致の促進」がともに18.2%となっています。

第3章 計画の方向性

1 基本理念

本計画の基本理念は、中島村第5次総合振興計画における村の将来像「みんなが主役 笑顔あふれる 美しきなかじま」を踏まえながら、「誰もが住んでみたくなるむら 笑顔で住み続けられるむら 中島村」として、移住・定住を促進します。

◇計画における具体的な目標



2 計画における具体的な目標

本計画には、「中島村創生総合戦略」に位置付けられた定住促進施策を重点施策として位置付けるものであるため、「中島村創生総合戦略」で定める以下の数値目標を本計画における具体的な目標とするものです。

◇計画における具体的な目標

	令和2年度実績		令和7年度目標値
総人口 (令和2年度国勢調査)	4,885人	⇒	4,641人 (およそ50人の減少緩和)
	平成27年度実績		令和5年度目標値
住みやすいと思う住民の割合 (学生以外、住民アンケート)	61.6%	⇒	70.0%

3 基本目標

基本理念に基づいて定住促進を図るために、「移住・定住へのきっかけづくり」「移住・定住の体制づくり」「住みよい環境づくり」の3つの施策を設定しました。

基本目標 1 移住・定住へのきっかけづくり ～中島を知る・訪れる～

移住・定住の促進に向けては、まずは中島村を知ってもらい、そのうえで村の魅力に触れてもらうことが重要となります。

そのため、地域資源を活用しながら、効果的に中島村の魅力、情報を発信し、中島村をPRするとともに、実際に訪れる機会を多くつくり出すことで、中島村の魅力に触れ、移住・定住につなげていきます。

基本目標 2 移住・定住の体制づくり ～中島に移り住む～

地方への移住希望者が移住場所を決めるポイントとして、移住先の住まいが確保されていることが重要な要素になります。

そのため、既存の資源を活用しながら、新たな住宅地の整備に取り組みます。

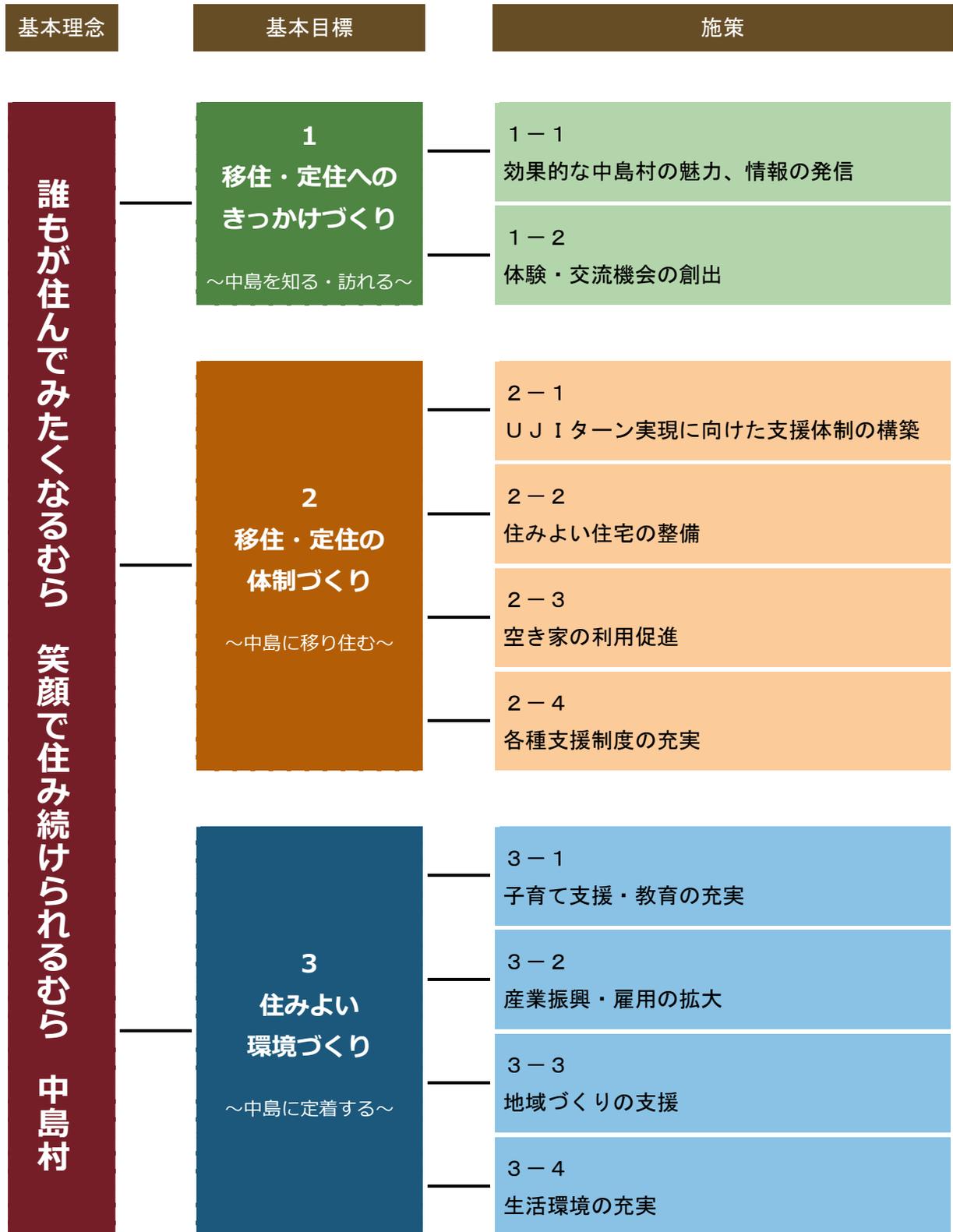
また、移住後も永く住み続けることができるよう、移住後のフォローの充実を図ります。

基本目標 3 住みよい環境づくり ～中島に定着する～

住民にとって、いつまでも安心・安全・快適に住み続けられるむらであるよう、就労、子育て、地域コミュニティ等様々な視点から生活環境の向上に取り組み、中島村に住み、働き、豊かな生活を送りたい人を増やしていきます。

また、住民の中島村への愛着の醸成に努め、魅力的なむらの創造を図ります。

4 施策の体系



第4章 施策の展開

基本目標 1 移住・定住へのきっかけづくり

～中島を知る・訪れる～

1-1 効果的な中島の魅力、情報の発信

方向性

移住・定住の地として中島村が選ばれるために、移住・定住に関するニーズを把握し、中島村の魅力や特性を積極的に情報発信し、知名度の向上を図ります。

取り組み内容

項目	概要
中島村をPRするガイドブック・動画の作成	中島村の基本的情報や定住施策、地域の情報等の様々な情報を一元化し、住みやすさや利便性をアピールするため定住ガイドブックを作成します。また、村の魅力を凝縮した動画を作成し、中島村をPRする新たな広報媒体として活用します。
文化財保護及び伝統文化継承事業	村内外の人が村の文化財について学べるよう、文化財に関する案内板やガイドブックを作成します。また、伝統文化についても保存会を立ち上げ、来訪者が体験したり、村の子どもが文化を継承し、郷土愛を持てるように促します。
近隣市町村と連携した定住PRの実施	白河定住自立圏構想やF I T構想に関わる市町村と連携し、移住・定住PRに取り組みます。

1-2 体験・交流機会の創出

方 向 性

定住促進に向けて、まずは中島村を知り、その魅力を直に体験してもらえよう、各種イベントの充実を図ります。

取り組み内容

項目	概要
各種イベントの充実	「なかじま輝ら×2秋祭り」をはじめとした、イベント内容の周知を充実し、より多くの村内外の人が楽しむことができるようにし、交流人口の拡大を図ります。

基本目標 2 移住・定住の体制づくり

～中島に移り住む～

2-1 UJIターン実現に向けた支援体制の構築

方向性

相談窓口の設置・充実、セミナー・相談会等の開催等により、定住前の情報の提供・相談に積極的に応じるとともに、定住後のアフターフォロー等にも対応します。

取り組み内容

項目	概要
移住・定住窓口の設置の検討	移住希望者が気軽に相談し、移住に向けた検討、準備ができるよう、移住・定住の相談窓口を検討します。
村内の移住体験者の協力体制の構築	既に中島村に移住してきている人の中で、移住を考えている人の相談役や移住後のフォローを行うことができる人材を調査し、協力体制の構築を図ります。

2-2 住みよい住宅の整備

方向性

移住・定住の受け皿づくりとして、新規住宅分譲地の造成及び村営住宅の長寿命化に取り組みます。

取り組み内容

項目	概要
新規分譲地の検討	住宅地への需要を十分に調査し、必要とされる場合には、上下水道等インフラの整備された候補地から、宅地造成を検討します。また、その際には、民間事業者と連携を図るとともに、遊休村有地の利活用を検討します。
村営住宅改善事業	村営住宅の長寿命化を図るため、定期的に点検・修繕を行います。
記念樹交付事業	花と緑化木の里づくりを推進するため、住宅の新築、子どもの出生を記念し記念樹を交付します。

2-3 空き家の利用促進

方向性

今後増加が予想される空き家の活用方法について検討し、移住希望者を受け入れる体制づくりに取り組みます。

取り組み内容

項目	概要
空き家調査の実施	空き家を活用した定住促進の第一歩として、村内にある空き家を調査します。
空き家の活用方法の検討	空き家調査の結果を踏まえて、活用の可否及びその方法について検討します。

2-4 各種支援制度の充実

方向性

移住・定住に関する各種支援を行うことにより、人口増加につなげます。

取り組み内容

項目	概要
定住化促進支援奨励金の交付	中島村が分譲する「浦原ニュータウン」の土地を取得し、その土地に定住する方を対象に、奨励金を交付します。
移住・定住支援事業	首都圏から指定された企業に就職し、村内に移住する際に、補助金を交付します。
結婚新生活支援事業	40歳未満で低所得の新婚世帯に引越し費用等の補助金を交付します。
緑化推進生垣整備補助事業	花と緑化木の里づくりを推進するため、生垣整備を行う方に対し、補助金を交付します。

基本目標 3 住みよい環境づくり

～中島に定着する～

3-1 子育て支援・教育の充実

方 向 性

結婚・妊娠・出産・子育て、また、子どもの教育にいたるまで一貫した支援を行うことで、自然増による人口減少、少子化の抑制を図ります。

また、保育料の無料化等、中島村の特色を活かして「子育てしやすいむら」をPRします。

取り組み内容

項目	概要
記念樹交付事業 (2-2再掲)	花と緑化木の里づくりを推進するため、住宅の新築、子どもの出生を記念し記念樹を交付します。
母子保健事業の充実	子どもの発育や育児に関する悩みを持つ親の不安の解消のため、各種母子保健事業の推進により、子どもを育てやすい環境を構築します。
保育所保育料の無料化	保育所における保育料の無料化を実施します。
幼稚園保育料等の無料化	幼稚園における保育料及び給食費の無料化を実施します。
子ども医療費助成	18歳までの児童・生徒にかかる医療費の無料化を実施します。
放課後児童クラブ整備事業	両親が共働きの小学生児童が、放課後に安心して遊びや勉強ができるよう、放課後児童クラブを整備します。
次世代育成支援対策施設整備事業	村内のすべての子どもが、安全に遊び、他学年の児童と交流し、学習することができる場を提供するため、子どものための総合施設を整備します。
学校・家庭・地域の連携強化	学校と地域が連携した教育活動の一層の充実を目指し、「中島村教育ポータルサイト」の充実等を図ります。

3-2 産業振興・雇用の拡大

方 向 性

中島村が培ってきた農業を安定した産業として発展させるため、担い手、法人化の支援に取り組むとともに、所得の向上、雇用の拡大を図るため、6次産業化やブランドづくり、農地流動化を支援します。

また、村内の就労の場を確保するため、企業誘致や地域産業創出支援等の取り組みを推進します。

取り組み内容

項目	概要
意欲ある農業者の育成・支援	地域農業を担う後継者を育成・確保するため、新規就農者への就農相談、情報提供や農業に関するフォローアップ等の支援を行います。
農地流動化の推進	農地（耕作放棄地含む）の高度利用を促進するため、認定農業者や法人等が効率的に農業を行えるよう、農用地の利用集積について検討します。
6次産業化の推進	農産物の付加価値を高めるため、生産（1次）、加工（2次）、流通・販売（3次）を総合的に行う6次産業化に取り組めます。
地域産業創出事業	新たな中島村の特産品を開発することで、雇用創出、地域の活性化、村の知名度向上につなげます。
企業誘致事業	中島村のメリットが見込める企業を誘致し、企業の立地計画にあった用地の選定・取得造成までを一貫してサポートするオーダーメイド方式により、企業誘致を推進します。また、起業しやすい環境づくりを支援するため、商工会や金融機関等の関係機関との連携を強化します。
求人情報の提供	ハローワーク白河と連携し、求人情報を提供します。

3-3 地域づくりの支援

方向性

安全・安心な住環境の整備を進めるとともに、住民が主体的に地域づくりに取り組めるよう、その活動を支援します。

取り組み内容

項目	概要
地域づくりの住民活動の支援	まちづくりや地域の課題解決等に取り組むボランティア団体やNPO団体の活動支援を行います。
文化財保護及び伝統文化継承事業（1-1再掲）	村内外の人が村の文化財について学べるよう、文化財に関する案内板やガイドブックを作成します。また、伝統文化についても保存会を立ち上げ、来訪者が体験したり、村の子どもが文化を継承し、郷土愛を持てるように促します。

3-4 生活環境の充実

方向性

「住みたくなるむらづくり」に向けた魅力的な住環境の創出の一環として、道路・交通環境の整備や地域交流の拠点づくり等の活動を支援します。

取り組み内容

項目	概要
アクセス道路の整備	国県道等の広域幹線道路にアクセスする道路整備を推進し、生活の利便性の向上を図ります。
交通弱者への支援	交通弱者の交通手段として、デマンド交通*の利便性の向上とサービス内容のさらなる充実を支援します。
健康づくり・介護予防の支援	中島村独自のリハビリ・フィットネス型施設を設置し、介護運動指導員によるマシンを使った筋肉トレーニングやリハビリ運動、脳トレを行い、健康づくり、介護予防、認知症予防を支援します。
小さな拠点づくり支援	地域ごとにサロン等、地域交流の拠点となる場所づくりの支援を行います。

* デマンド交通：交通弱者の足として、利用者の要求に対応して運行する形態の交通サービス

第5章 計画の推進

1 推進体制

進行管理はPLAN（計画策定）、DO（取り組みの実行）、CHECK（進行状況の点検）、ACTION（計画の評価・見直し）のPDCAマネジメントサイクルを基本として行います。また、庁内において進行管理を行うとともに、連携・協力して計画の推進を図ります。

また、計画の推進にあたっては、人口減少がもたらす地域活力の衰退に対する問題意識を中島村全体で共有することが重要です。行政、関係団体、住民等すべての主体が、それぞれの課題と役割について共通認識を持って効果的に活動するため、ネットワークの構築を推進します。

2 広域連携

市町村の枠を越えた広域的な取り組みとして、白河定住自立圏構想やFIT構想との連携を推進し、圏域全体の活性化を図ることで、人口の定住化を目指します。

中島村定住促進計画

平成 28 年 3 月

(令和 3 年 3 月改訂)

発 行：中島村役場企画振興課

〒961-0192 福島県西白河郡中島村大字滑津字中島西 11-1

TEL 0248-52-2113 FAX 0248-52-2170